

全病連・地域連携分科会 発表概要（抄録集）

1. 発表者 松尾 千絵
2. 学校名 神奈川県立秦野養護学校
3. 発表テーマ 小児の高次脳機能障害の支援
4. 学校概要 神奈川県立秦野養護学校（病弱・知的）
 - A 部門：病弱教育部門・病弱教育（隣接する神奈川病院に入院している児童生徒／自宅から通学する児童生徒）
 - B 部門：病弱教育部門・重度重複教育（隣接する神奈川病院に入院している重度重複障害のある児童生徒）
 - C 部門：病弱教育部門・訪問教育（神奈川リハビリテーション病院に入院している児童生徒）
 - D 部門：病弱教育部門・訪問教育（弘済学園に入所している児童生徒）
 - E 部門：知的障害教育部門・高等部（自宅から通学する知的障害のある高等部生徒）

5. 発表概要

神奈川県立秦野養護学校・C部門（かもめ学級）は、神奈川リハビリテーション病院内に設置されている院内学級である。この病院には、交通事故などによる脳外傷や、脳炎・脳症・脳梗塞・脳出血などの病気による脳損傷の後遺症で高次脳機能障害を負った子どもたちが多数入院し、かもめ学級に転学してくる。高次脳機能障害によって見られる症状はさまざまだが、どのような症状でも、退院後の学校生活に大きく影響するものが多い。そのため、入院期間中、医師や臨床心理士、作業療法士などの専門職からのアドバイスを受けながら、かもめ学級での学習を通して、復学後の生活や学習を見据えた取り組みを行い、その情報を転学先の学校と共有し、スムーズに復学できるよう配慮している。

しかし、全ての子どもが退院後も順調に学校生活を送れるとは限らず、高次脳機能障害からくる症状を理解してもらえずに苦しむ子どもや保護者、対応に苦慮する先生方を多く見てきた。

そこで、退院後の転学先である小・中学校の先生方や保護者に高次脳機能障害を理解していただくこと、適切な支援を受けて子どもたちが安心して無理なく生活できるようになることを目的として、「小児の高次脳機能障害・支援ガイドブック チェックリスト付」を作成した。このガイドブックは、神奈川リハビリテーション病院の臨床心理士に校内研究に加わっていただき、内容を精選し文言をまとめ、さらに医師からも助言を受けて、5年間かけて平成25年度末に完成した。現在は、このガイドブックそのものだけでなく、作成する過程で得た知識や取り組みの成果も含めて、それらを毎日の指導にどう活かしていくか、ガイドブックをどう活かしてもらうかということについても研究を進めている。

今回の全病連・京都大会では、「小児の高次脳機能障害・支援ガイドブック チェックリスト付」の内容に触れながら、かもめ学級がこれまで積み重ねてきた小児の高次脳機能障害への対応や取り組みの成果について発表する。この発表を通して、さらに多くの方に高次脳機能障害を知っていただき、その輪が広がって、高次脳機能障害に苦しむ子どもたちが、少しずつでも楽しい学校生活を取り戻していけるように、失いかけた自信を取り戻していけるように、そして新しい可能性を引き出していけるようにと願っている。

6. 成果と課題

これまで「小児の高次脳機能障害・支援ガイドブック チェックリスト付」作成に関わる取り組みの過程で、神奈川リハビリテーション病院の医師や臨床心理士から、高次脳機能障害についてはもとより、在籍している児童生徒への実践例を取り上げながら、子どもたちの見立てや具体的な対応策についても学ぶことができた。そして、それらをまた翌日からの指導に活かすこともできている。今後は、私たちの積み重ねた実践を、より充実した形での「事例集」などのような形でまとめ、広めていくことも求められている。